



気管支喘息について No2

話題の新薬 オルケディア錠

喘息の症状

咳や痰、息苦しさや「ゼーゼー」「ヒューヒュー」といった喘鳴など、さまざまな症状があります。最近では咳だけの喘息も増加しています。また、胸の痛みやのどに感じる違和感なども症状のひとつです。

喘息の症状がおこりやすい時

喘息の発作は、夜間や早朝におこりやすいのが大きな特徴です。その他にも次のような時におこりやすい傾向があります

- 季節の変わり目など、気温差がはげしいとき
- 天気がよくないとき、変わりやすいとき
- 疲れているとき
- 風邪をひいたとき
- 発作を引き起こす刺激に触れたとき
(タバコの煙、線香の煙、強い臭いなど)

喘息を引き起こす刺激となるもの

喘息の方の気道は炎症により敏感になっているためわずかな刺激でも発作がおこります。誘因は吸い込むとアレルギー反応をおこす「アレルゲン」と、タバコの煙などのアレルゲン以外のものがあり、さまざまです。いくつかの誘因が絡み合っ発作がおこります。これらの誘因をできるだけ遠ざけることが発作の予防になります

主なアレルゲン

ダニ、ハウスダスト、ペット（動物の毛やフケ）
花粉、カビなど

アレルゲン以外の誘因

タバコ、風邪、感染症、過労、ストレス
運動、汚れた空気（排気ガス、光化学スモッグなど）
天気や気圧の変化



カルシウム受容体作動剤

協和発酵キリンは、「オルケディア錠1・2mg」を販売した。本剤は、国内2剤目の経口カルシウム受容体作動薬であり、既存の薬剤にはシナカルセト塩酸塩（商品名：レグパラ）がある。本剤は、レグパラが有する悪心などの上部消化管に関連する副作用や、CYP2D6阻害作用による薬物相互作用に関する問題の軽減を期待し、開発された薬剤である。二次性副甲状腺機能亢進症治療における患者さんの負担やリスクを軽減し得る、新たな治療選択肢となると期待されている。1日1回1～8mgの間で適宜用量を調整し、経口投与するが、効果不十分な場合には適宜用量を調整し、1日1回12mgまで経口投与することができる。

薬価 1mg 1錠＝280.7円
2mg 1錠＝412.1円

副作用情報 キイトルーダ点滴静注

MSDから販売されている腫瘍用薬の「キイトルーダ点滴静注20・100mg」は、直近3年11か月の副作用報告で、因果関係が否定できない副作用として、「硬化性胆管炎関連症例」が3例（うち死亡0例）報告された。そのため重大な副作用の項に「硬化性胆管炎」が追記された。

レバーだけじゃない！貧血予防法

鉄の調理器具は料理するだけで鉄分補給が可能。インスタ映えで鉄の調理器具が大人気。複数の量販店が大量生産を始めたことで500円ほどから買えるようになった。ガッテン！のオススメは鉄鍋や中華鍋で味噌汁を作ることで、1杯で日本人の1日の不足分が補える。スポーツ栄養士の藤井瑞恵さんのオススメは青菜、大豆製品、アサリ。1日の不足している鉄分はレバーの焼き鳥1本で補える。他には小松菜のおひたし100g、アサリの酒蒸し16個、牛赤身肉90g、納豆1パック。こうした食材をビタミンCと一緒にとれば吸収率アップ。

